

平成25年12月18日

北海道開発局

第6回 北海道開発局コンプライアンス第三者委員会
議事概要について

(概要)

標記委員会について、以下のとおり開催されましたので、お知らせします。

(開催日時)

平成25年12月13日(金) 15時30分～17時05分

(開催場所)

札幌第1合同庁舎15階 北海道開発局特別会議室

(出席者)(敬称略)

委員長	阿座上洋吉	地域経済研究所理事長
委員	岩本 勝彦	岩本・佐藤法律事務所弁護士
	谷口 勇仁	北海道大学大学院経済学研究科教授
	篠本 道男	公認会計士・税理士篠本道男事務所公認会計士
	林 菜つみ	林菜つみ法律事務所弁護士
	藤田美津夫	藤田・荒木法律事務所弁護士

*欠席 向田 直範 北海学園大学法学部教授

北海道開発局

高柳次長、是川開発監理部長、川崎事業振興部長、山口建設部長、
川合港湾空港部長、仲家農業水産部長、内野井営繕部長ほか

(議事概要)

- 事務局より、「これまでのコンプライアンス推進の取組状況及び今後の進め方」について説明した。

○ 委員から次のような意見があった。

- ・ 倫理は、ボトムアップではなく、トップダウンの問題。組織のトップ以上に良くなることはない。組織風土の改善については、特に幹部職員の能力向上が大切であり、そこに力を入れていることが重要。何が不祥事の種になるのか幹部職員がしっかりと把握しなければ現場は弛むこととなる。
- ・ リスクマネジメントについては、現場から新しいリスクを吸い上げていくような仕組みが必要ではないか。
- ・ 不祥事の未然防止に力を入れすぎると膨大なコストがかかるので、不祥事が起きたときにそれを最小化するクライシスマネジメントにも意識を向けて考えてみてはどうか。
- ・ 他の機関の不祥事の生きた事例を研究することも有効でないか。
- ・ 取組が量的に膨大なので、コンプライアンスと業務改善の2つの視点から少し整理をしてみてはどうか。業務の時系列の中でコンプライアンスというものをもう一度考えてみてはどうか。
- ・ 今のコンプライアンスの取組を安易に緩めない方がよい。取組の効率化、重点化が職員に対し誤ったメッセージにならないように注意していかなければならない。
- ・ コンプライアンスの仕組みができて終わりではなく、日々実践を続けて習慣化させていくこと、変化に応じて日頃の見直しをしながら対処していくことが大事である。
- ・ 開発局のコンプライアンスに対する取組の完成度は高まってきているが、更にもう一歩良いものにするにはどのようにすべきか考えてみてはどうか。
- ・ 現在、開発局がコンプライアンス推進に取り組んでいる原点を忘れないよう、若い職員や新任の管理職員に対し、歴史をしっかりと伝えていくことが大事である。

- ・ 開発局に対する評価や期待にどう応えていくのかという意識を持って行動することで、殊更コンプライアンスと言わずとも、ルールが無くとも物事をしっかりやっていけるのではないか。
- 委員からのこれらの意見に対し、当局側から、今年度後半のコンプライアンス推進の取組に反映するとともに、来年度以降の進め方を検討していきたい旨回答した。

以 上